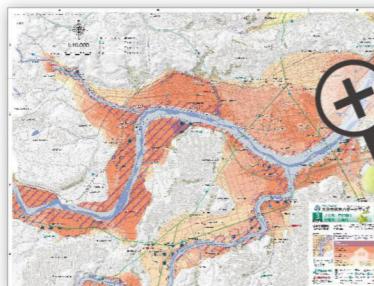


1 ハザードマップを見る

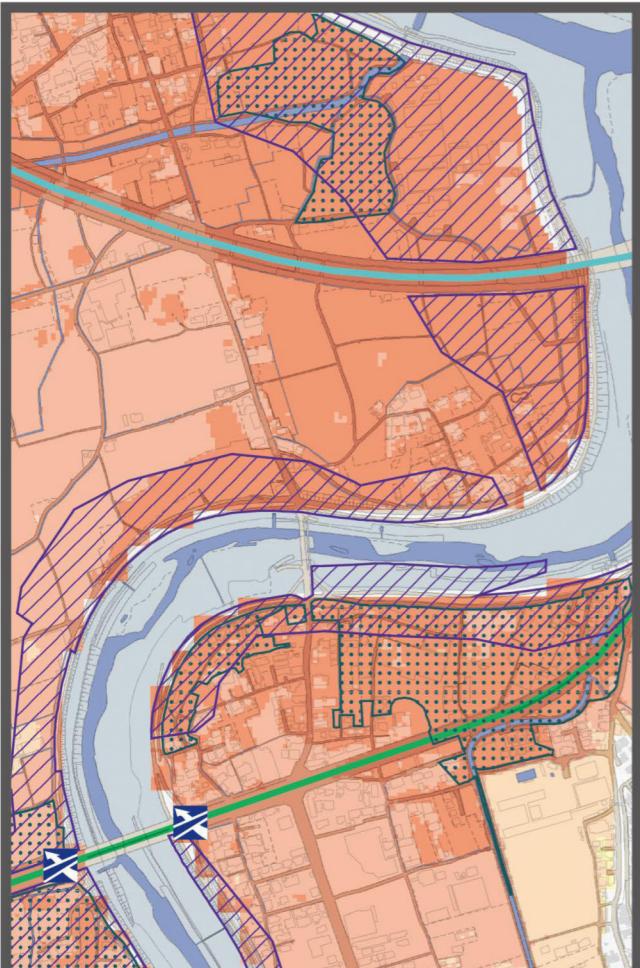
浸水の深さを知って、状況に応じた避難を考えよう

あなたの居場所の 浸水は何m?

うら面のマップは洪水が起きたときの被害予測地図(ハザードマップ)です。自分や大切な人たちがいる居場所に想定される浸水の深さを確認!



まずはマップを見よう!
うちはどのくらい
浸水するの?



浸水想定区域外でも、道路の冠水や内水氾濫が発生する可能性があるので注意しましょう。



アンダーパス

交差する鉄道や道路などの下を通過するため、周辺の地面よりも低くなっている道路のことです。地形的に雨水が集中しやすい構造のため、大雨・洪水時に自動車で侵入すると危険です。

家屋倒壊等氾濫想定区域

河川沿いは要注意!

堤防が削られる(河岸侵食)
または、水深・流速(氾濫流)により建物の倒壊が想定される区域

予測される浸水の深さ

10m以上

2階屋根以上が浸水

5m以上

2階屋根まで浸水

3~5m

2階床下まで浸水

0.5~3m

2階床下まで浸水

膝上を越えると
歩行は危険!

車が浮く
流される

0.5m未満

1階床下まで浸水

大人の
膝下くらい

車から退出!

2 正しい避難行動を知る

事前に避難先を決めて、避難経路を考えよう

どこにどうやって 避難する?

浸水の深さに応じて事前に避難先を決めておくことが大切です。表紙のページにある記入項目を家族で話し合って書き込みましょう。

※浸水想定区域外への避難が基本

わが家の防災メモ

避難先	
家族の集合場所	

名前 (家族・親戚・知人)	緊急時の連絡先 (会社・学校・携帯電話)	生年月日 / 血液型

必ず記入しておきましょう

表紙のページを
家族と書いてみよう



必ず すぐに避難

時間と安全な避難経路が確保されていれば…
外が明るいうちに
必ず避難

緊急避難場所・高台の道路・空地など
浸水しない安全な場所へ



緊急避難場所/

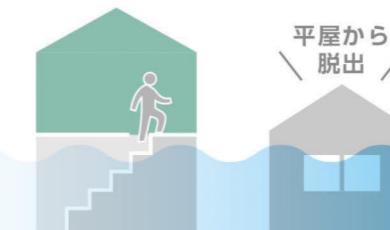


とにかく早く
ここから避難!

マップにある
このマークの場所へ!



今いる建物の2階以上または
近くの安全な高い建物へ

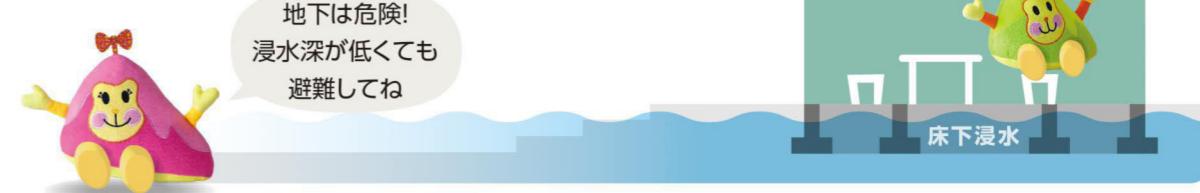


高いところに
避難する!

すでに外が危険な場合

すでに外が危険な場合

あわてず、その場に
とどまり安全確保



これなら外に
避難しなくても
大丈夫そう



床下浸水